

秀吉・清正ゆかりの社寺

●豊国神社〈とよくにじんじや〉

秀吉を祭神とする神社。明治18年(1885)、地元の有志が尽力し、国貞県令の協力を得て現在地に本殿が完成した。明治43年(1910)の清正300年祭を機に清正を合祀した。初詣をはじめ、秀吉の命日にちなみ、毎月18日の月次祭や5月の太閤祭など多くの行事で親しまれている。

●常泉寺〈じょうせんじ〉

日蓮宗寺院。慶長3年(1598)に秀吉が没した後、その屋敷跡に円住院日誦上人を開山として清正が建てたと伝えられる。境内には「秀吉手植えのヒイラギ」や秀吉銅像などがある。

●妙行寺〈みょうぎょうじ〉

日蓮宗寺院。日蓮宗の熱心な信者であった清正が、名古屋城天守の石垣工事の折に用いた普請小屋を移築し本堂としたとされる。熊本・本妙寺三世日蓮上人の手になる清正像が、清正公堂にまつられている。清正の銅像や生誕地碑もあり、7月の大祭は多くの人でにぎわう。

中村公園文化プラザ

中村公園の南西角にたつ、名古屋市の複合施設。1階が中村図書館、2階が秀吉清正記念館、3階が中村文化小劇場。秀吉清正記念館は、秀吉、清正の生涯やその家臣を紹介する資料館。秀吉ゆかりの近江木下家資料や兼松家資料(いずれも名古屋市指定文化財)を所蔵している。常設展のほか、特別陳列も開催している。

中村公園駅から公園へ

●大鳥居

地下鉄東山線中村公園駅の真上に立つ、高さ約24メートルの巨大な鳥居。中村が名古屋市に編入されたのを記念し、昭和4年(1929)に鉄筋コンクリートで建てられた。設計は名古屋高等工業学校土屋純一教授。昭和30年代には市電の停留所が鳥居下にあった。

●中村参道緑道(愛称:豊国参道)

中村公園と中村公園駅を結ぶ道。明治34年(1901)の中村公園開園とともに整備され、昭和60年(1985)に拡張された。松並木が美しく、「手づくり郷土賞」を受賞している。毎月9のつく日に“九の市”〈くのいち〉が開催され多くの露店が出てにぎわう。

豊臣秀吉 1537~1598

秀吉は、尾張国中村で生まれた。本能寺で織田信長が明智光秀に滅ぼされると、光秀を倒し、全国を統一した。天正13年(1585)に関白に任じられ、太閤と呼ばれた。愛児秀頼を残して没し、豊国大明神〈とよくにだいましょうじん〉の神号が与えられた。



豊臣秀吉画像 名古屋市指定文化財 名古屋市秀吉清正記念館蔵

加藤清正 1562~1611

清正は、中村に生まれ、秀吉に仕えて数々の合戦で活躍した。秀吉没後は肥後熊本の藩主となった。築城の名手であり、名古屋城の天守普請を担当した。没後は、「清正公」〈せいしょうこう〉としてあがめられた。



加藤清正画像 名古屋市秀吉清正記念館蔵

秀吉・清正ゆかりの社寺

- 豊国神社
- 常泉寺
- 妙行寺

名古屋駅から地下鉄東山線7分
「中村公園」下車
3番出口より北へ徒歩10分



利用時間・休業日・利用料は、各施設により異なります。詳しくは各施設へお問い合わせください。

中村公園事務所(中村公園記念館)	電話 052-413-5525 FAX 052-485-7163
名古屋市中村図書館	電話 052-411-3651 FAX 052-411-3645
名古屋市秀吉清正記念館	電話 052-411-0035 FAX 052-411-9987
名古屋市中村文化小劇場	電話 052-411-4565 FAX 052-411-3253



中村公園 (愛称:秀吉清正公園)

中村公園一帯は、古くは尾張国愛智郡中村と呼ばれる農村であった。慶長20年(1615)の豊臣家滅亡後も、太閤屋敷跡の名は残り、秀吉生誕地として世に知られていた。

明治維新後、中村は愛知県の管轄となった。秀吉再評価の機運を受け、明治34年(1901)、秀吉の馬印である千成瓢箪にちなみ瓢箪形の池が作られ、周囲には藤が植えられた。中村公園の誕生である。大正6年(1917)には、造園の大家である東京大学本多静六教授の設計により大改良された。

大正10年(1921)、一帯は名古屋市に編入された。その後、中村公園は市立公園の先駆けとなり、太閤池や関白池、香りの園、児童遊具などが次々に整備された。

現在、春の太閤花見茶会、夏の中村公園夏まつり、秋の区民まつりなど、四季に応じ人々でにぎわう。平成28年(2016)には「秀吉清正公園」の愛称が決まり、武将の聖地としてますます注目を浴びている。

園内の史跡

●豊公誕生之地碑

明治16年(1883)、当時の愛知県令(知事)国貞廉平が秀吉生誕地を知らしめる板碑を建て、明治44年(1911)、深野一三知事による石碑に替えられた。

●中村公園記念館

明治43年(1910)、清正没後300年を記念して愛知県が建築した木造瓦葺の書院。同年11月、皇太子(後の大正天皇)が、愛知・三重の陸軍演習を巡覧され、途中の休憩所として使用された。大正12年(1923)、名古屋市に移管され、戦後、結婚式場としても使用された。平成28年に耐震改修工事が完了し、有料施設として市民利用が再開された。床の間、付書院をそなえた書院造の建物で、豊頌軒〈ほうしょうけん〉とともに平成28年度(2016)に国の登録文化財に指定される。

●大正天皇御手植えの松 ●大正天皇漢詩碑

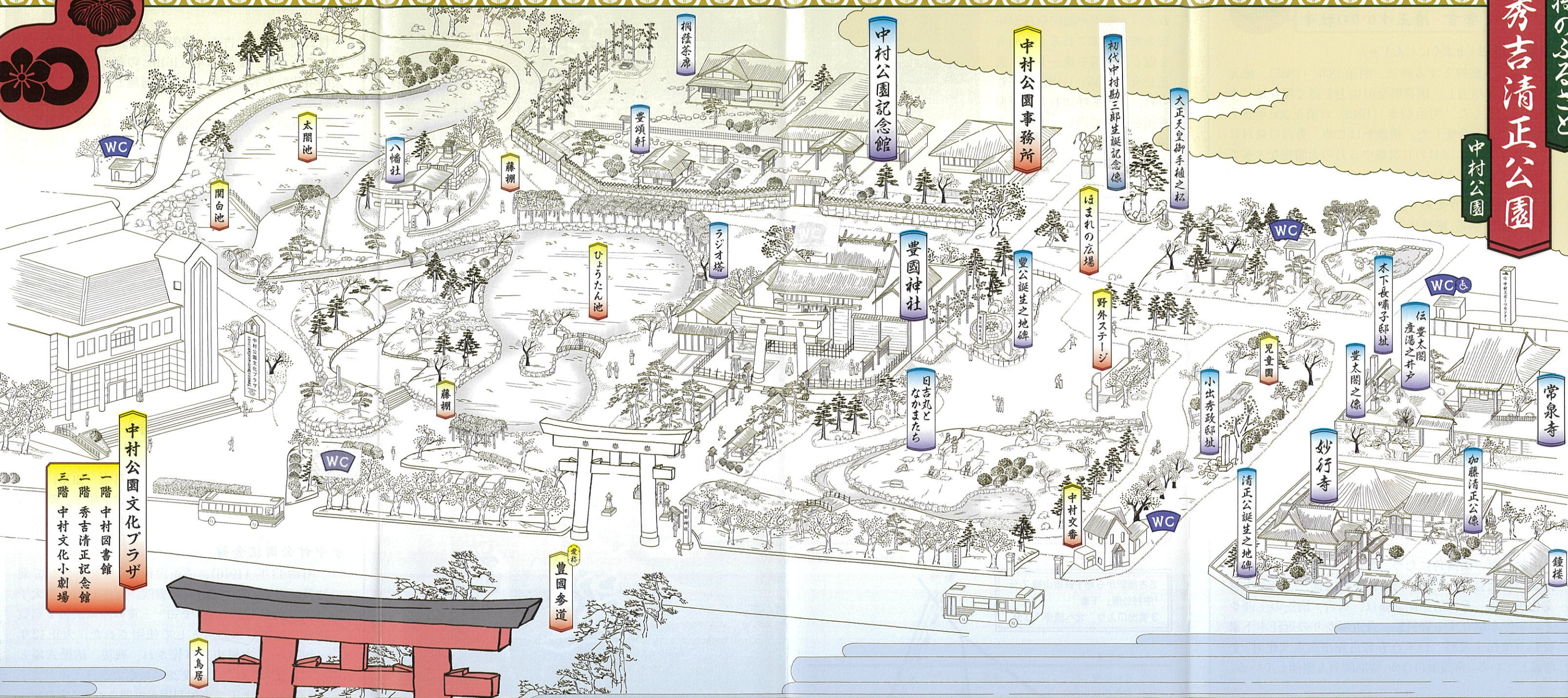
明治43年(1910)の行啓の折り、秀吉をしのんで漢詩を作られ、また松を植樹された。

●木下長嘯子〈きのしたちようしゅうし〉邸址 ●小出秀政邸址

木下長嘯子(1569~1649)は、秀吉の正室高台院(ねね)の兄木下家定の長男で、はじめ勝俊と名乗り秀吉に仕えた。のち隠居し当代屈指の歌人となった。小出秀政(1540~1604)は、秀吉の義理の叔父で、和泉岸和田城を与えられた。中村ゆかりの二人を顕彰するため、大正4年(1915)、大正天皇即位にもなう御大典事業の一環として碑が建てられた。

秀吉清正公園

中村公園



中村公園文化プラザ

一階 中村図書館
二階 秀吉清正記念館
三階 中村文化小劇場

名将
豊臣秀吉
加藤清正が
生まれた地
中村

ようこそ
戦国時代の
聖地
中村公園へ

この「中村公園史跡めぐり絵図」は、『尾張名所図会』（おわりめいしよずえ、岡田啓・野口道直編、一八四四年初編刊）にならって描いた案内図です。

名所図会とは、江戸時代に出版された絵入りの地誌で、観光ガイドの役割も果たしていました。中でも『尾張名所図会』は、高水準の名所図会として知られており、また尾張の画家小田切春江他による挿絵は、実用的な案内図であると同時に、風趣に富み目を楽しませるものでした。その一葉には、秀吉と清正の生誕地として中村の里が描かれています。

絵図を片手に、史跡に満ちた中村公園をお訪ねください。

尾張名所図会巻五
名古屋博物館蔵

